



建築工事



土留め壁（擁壁）施工



工場建築



公園築造



建築修繕工事



リフォーム

道路築造

下水工事

道路修繕

舗装工事

松原品質

松原の知的資産①：総合力

大型施設建築から戸建て住宅の新築・リフォームまで。更地の造成、建物建築から修繕工事まで総合的にを行います。

当社施工物件一例



土留め壁（擁壁）施工

下水工事

舗装工事

沿革

- 昭和35年8月25日 創業
- 昭和38年3月11日 個人事業を会社組織に変更、資本金80万円で松原建設合資会社設立
- 昭和51年3月1日 松原建設株式会社を資本金500万円で設立
- 昭和51年12月10日 資本を増資し、資本金額を2000万円とする。
- 昭和51年4月26日 許可取得（搬-51）第19107号（土、建）
- 昭和52年12月5日 管工事の追加の許可（搬-52）第19107号
- 昭和57年4月19日 一般より特定への変更許可（特-57）第19107号
- 平成元年12月27日 許可変更 土木、とび・土工、ほ装の一般より特定への変更許可（特-1）第19107号
- 平成3年8月21日 資本を増資し、資本金額を3000万円とする。
- 平成14年7月10日 造園工事の一般より特定への変更許可（特-14）第19107号（塗、防）
- 平成19年7月30日 役員の変更 代表取締役松原力男⇒取締役 松原力男
役員の変更 取締役松原正敏⇒代表取締役 松原正敏

松原の知的資産②

150社ものプロとの協力体制

当社では約150社の建築に関係する企業との協力体制を構築しており、適切な協力企業の選定で、精度の高い建築や納期の短縮などに柔軟に対応しております。
—協力企業施工分野一例—
土木、水道、電気、内装、塗装、屋根、ガラス、防水 など

松原の知的資産③

「知的資産」とは、人材、技術、組織力、顧客とのネットワーク、ブランド等の目に見えない資産のことで、企業の競争力の源泉となるものです。これは、特許やノウハウなどの「知的財産」だけではなく組織や人材、ネットワークなどの企業の強みとなる資産を総称する幅広い考え方で（経済産業省ホームページより）。

松原品質 — 見えないところも手を抜きません —

松原建設では、建築物も土木工事も「長年にわたり使用すること」を念頭に、見えない部分も品質を追求しています。

松原の得意分野①：土留め壁（擁壁）

土留め壁（擁壁）とは、家等を建てる前に施す構造物であり、土砂崩壊を止める為のものです。家を守るのが、この擁壁であり、家と同様に長年にわたり品質をを保ち続けることが大切です。当社では長年の経験から、他社とは違う施工を行っています。



土留め壁（擁壁）施工

松原品質①
スリッパバー



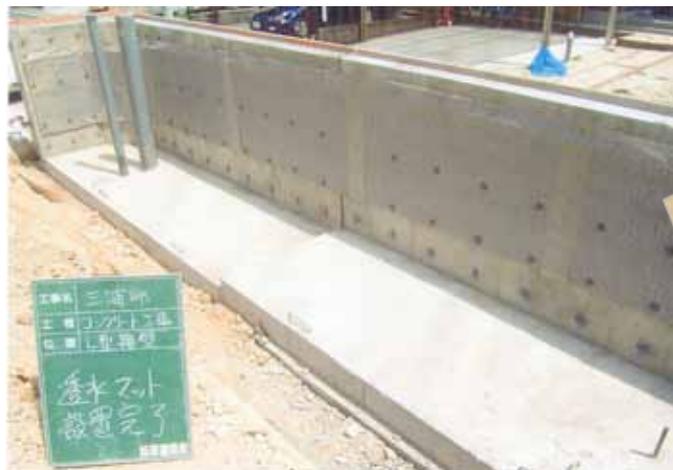
スリッパバー

年月がたってコンクリート壁がずれてしまった・・・ なんてことにはなりません

当社では擁壁の目地に可動防止の鉄筋（スリッパバー）を入れます。施工に当たってはスリッパバーの片面をコンクリートと固定させ、もう片方は塩ビケースで保護して、直接コンクリートと接触させないというひと手間かけた施工を行っています。このスリッパバーにより、年月がたっても、コンクリートの継ぎ目でのずれが生じません。他社ではコストダウンのため、このような施工を行わず、部品を省いたり、手間のかからない施工を行いますが、当社ではお客様がずっと安心して建物をお使いいただけるよう、見えないところにも手を抜かない方針を貫いています。

長年の間にじんわり壁をいためる土の中の水分…

施工時点からの対策が重要です！



松原品質②
透水マット

当社ではコンクリート壁と土の間に透水マットを入れています。この透水マットは、その名前のお通り、水を通すマットです。なぜこのようなマットを土と壁の間に設置するかというと、土から染み出す水だけを壁の外に放出することができるからです。土留め壁（擁壁）には水を通す穴がありますが、マットがなければ、水と共に土が穴に流れ込み、目詰まりを起こし、十分に水が排出されなくなります。そうして内部にたまった水分はじわじわと壁をいためていきます。土留め壁（擁壁）は家を守るための壁なので、家と同様、長年にわたり品質を保ち続けることが重要であると考え、わたしたちはこのようなひと手間かけた施工を行っているのです。

松原品質③

施工過程を写真で保存



証拠を写真として残します

施工の過程ごとに写真を撮影し、保存すること。公共工事の分野では当然のように行われていることですが、民間向けの工事では行われないことがままあります（見えない部分で手を抜いているのを証拠として残したくない、という業者もいるためです）。

当社では民間工事でももちろん施工過程の写真を保存し、お施主様に提出しております。それはもちろん、見えない部分にも手を抜かず、きちんとした施工を施しているからです。

松原品質 — 見えないところも手を抜きません —

松原建設では、公共工事で培った「技」を民間工事でもご提供しています。

松原の得意分野②：リフォーム

当社は長年公共工事の分野で、大型建造物の建築や道路などのインフラの整備を行っています。それらは数十年にわたって使用するため、非常に高い品質を要求されます。わたしたちはその高い品質を民間工事の分野でもご提供しています。

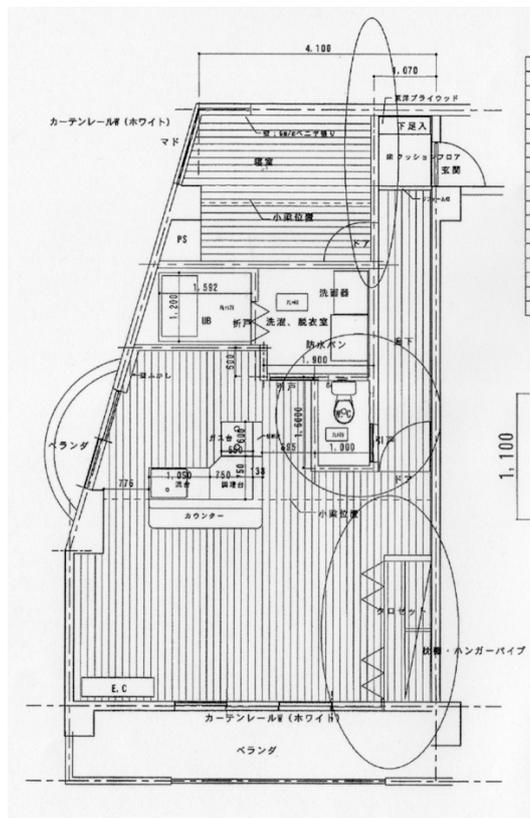
改装前

昔ながらの壁に向かったキッチンや和風の内装の集合住宅を当社でリフォームしました



リフォーム一例

改装後 当社図面



多数の公共工事や民間工事の経験から、動線を考えた施工主の観点からリフォームが行っています。この事例では対面キッチンの位置や扉の閉開の向き等に気を配り、お客様から「住みやすい」との評価を得ています。

松原品質 — 見えないところも手を抜きません —

松原建設では、公共工事で培った「技」を民間工事でもご提供しています。

他社との違い

請負金額 500 万以下の場合、建築免許がなくても経験者のみで対応が出来きるため、他のリフォーム会社では、施工不良が頻出しています。当社では、1 級建築士、1 級建築施工管理技士若しくは 2 級建築士の資格をもった社員が、施工を管理します。



リフォームでももちろん、証拠を写真として残します。壁をはがしたら驚きのずさんな工事…なんてことはありません



【知的資産経営報告書とは】

「知的資産」とは、従来のバランスシートに記載されている資産以外の無形の資産であり、企業における競争力の源泉である人材、技術、技能、知的財産（特許・ブランドなど）、組織力、経営理念、顧客とのネットワークなど、財務諸表には表れてこない、目に見えにくい経営資源の総称を意味します。

「知的資産経営報告書」とは、目に見えにくい経営資源、すなわち非財務情報を、債権者、株主、顧客、従業員といったステークホルダー（利害関係者）に対し、「知的資産」を活用した企業価値向上に向けた活動（価値創造戦略）として目に見える形で分かりやすく伝え、企業の将来性に関する認識の共有化を図ることを目的に作成する書類です。